

平成 29 年度「知事と市町長の1対1対談」(志摩市)概要

1 対談時間

平成 29 年 11 月 21 日 (火) 16 時 30 分～17 時 30 分

2 対談場所

志摩市商工会館 (志摩市阿児町鵜方字小向井 5012)

3 対談市町名

志摩市 (志摩市長 竹内 千尋)

4 対談項目

- (1) 観光商工施策について
- (2) 地域の課題について

5 対談概要

(1) 観光商工施策について

(志摩市長)

今年 2 月、三重県の台湾ミッションの一員として台湾を訪問し、高雄市政府及び学校関係者への教育旅行の誘致を呼びかけました。そのおかげで、台湾高雄市から 37 名の教育旅行団が志摩市を訪れることになりました。この場を借りましてお礼申し上げます。

来年 6 月に日 ASEAN 次官級交通政策会合が開催される予定であり、秋には日本ゴルフツアーリズムコンベンションの開催も決定していただいております。

伊勢志摩国立公園満喫プロジェクトにおいても、ナショナルパークの実現に向け、横山展望台の改修リニューアル工事についても期待が大きく、インバウンド施策に全力で取り組みを進めていきたいと思っております。

(知事)

平成 29 年 6 月、高雄市教育旅行団 37 名に志摩市を訪問していただき、伊勢えび祭りへの参加、海ほおずき干物づくり体験、志摩自然学校シーカヤック体験、志摩市立大王小学校訪問など交流を図っていただき好評でした。

MICE 誘致に取り組んできた結果、日 ASEAN 次官級交通政策会合が、平成 30 年 6 月下旬を目途に三重県で開催されます。伊勢志摩サミット後、初めてとなる志摩市での政府系国際会議の開催になります。また、日本で初開催となる日本ゴルフツアーリズムコンベンションを開催する予定でありますので、ご協力をお願いします。

伊勢志摩国立公園満喫プロジェクトについても、ソフト面とハード面でそれぞれの取組を行っていきたく思っております。ハード面では、ビューポイントの安乗埼灯台や大王埼灯台において、多言語化案内板の整備やトイレの洋式化等に取り組んでいるところです。横山展望台のリニューアル工事では、英虞湾を一望できる「天空カフェ」に大いに期待しております。多くの方に利用していただけるナショナル

パークとなるように、県としても協力していきます。

(志摩市長)

「鳥羽・志摩の海女漁の技術」の国重要無形民俗文化財への指定、「鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業」の日本農業遺産への認定に続き、現在は日本遺産への認定に向け、鳥羽市と連携し申請手続きを進めているところです。海女は三重県を代表する文化であり、海女文化の継承や魅力発信等引き続きのご支援をお願いしたいと思います。

(知事)

国指定文化財として「鳥羽・志摩の海女漁の技術」が指定され、「鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業」が日本農業遺産にも認定されました。日本遺産については、申請内容が地域の歴史的特徴や魅力を十分に伝えるものとなるよう、志摩市を支援していきます。また県では、水産振興・観光振興・文化財保護の3本柱により、海女文化の保存・振興に取り組んでいきます。

(志摩市長)

全国15基の参観灯台のうち、大王埼灯台・安乗埼灯台の2基が志摩市にあります。来年には、「灯台ワールドサミット（仮称）」と題し、日本の灯台を保持する地域はもちろん、世界中の灯台を保持する地域から人々を招き、灯台の活用や魅力発信について語り合うイベントを開催したいと考えています。

また、灯台のある周辺市町とも連携した灯台ツーリズムを開催できればと考えていますので、三重県にもご協力をお願いしたいと思います。

(知事)

大王埼灯台・安乗埼灯台の両灯台とも、歴史・文化的な価値を有し、志摩市、三重県を代表する観光資源であると認識しています。

一般社団法人日本ロマンス協会が全国各地の灯台をロマンスの聖地として認定する「恋する灯台プロジェクト」が今年6月から始まっています。灯台をロマンスの聖地として再価値化するプロジェクトの活用等もご検討いただければと思います。

県としては、観光連盟ホームページやInstagram等により、志摩市の魅力を発信するとともに、マーケティングデータの提供など旅行商品化に向けた支援も行っていきたいと考えています。

(志摩市長)

大正時代に全国製茶品評会で最優秀賞を受賞した「鵜方紅茶」の復活に向けた取り組みを進めています。また、休耕田を活用したサトウキビ栽培、シロップなどの商品作りに取り組んでいる方もみえ、サトウキビ振興の組合を設立しています。「志摩ブランド」のブラッシュアップを行い、特産品の魅力向上、販路拡大に力を入れていきたいと思っています。

また、食の宝庫である三重の食材を味わうレストランバスを三重県

と県内各市町で連携してできると面白いと思います。

観光に関わる人材育成に取り組むことも大切です。北海道大学や和歌山大学などの地方大学で観光に関するコースが新設されていることから、三重県内の大学でも観光に特化したマネジメントコースを設置できれば、この地域での人材不足に応えることが期待できると思います。

(知事)

6次産業化の支援メニューには、市町が中心となり、特産品の開発やブランド化をめざす取組や、地域資源を活用した新商品の開発等に対する補助事業がありますので、ご活用ください。

鵜方紅茶やサトウキビなど地域資源を活用した取組について、県では、農業改良普及センターを中心に市・JAと連携しながら栽培や加工の技術支援をしているところです。引き続き、生産・加工に関する技術支援や商品化へのサポートなどに努めていきます。

レストランバスについては、クラウドファンディングの活用なども考えていただければと思います。取組の具体化が進む中で、県としてどういった支援が可能であるか検討していきたいと思います。

国の来年度予算で、大学のサテライト設置調査研究事業があると聞いています。現在、観光等の人材育成として三重大学が実施している「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」にも引き続き取り組んでいきます。

(志摩市長)

ウォーキング、マラソン、トライアスロン、サイクリング等の各種イベントの実施を地域と一丸となって行っています。

サーフィンや SUP、カヤック等のマリンスポーツは注目が高く、今年の11月3日と4日に全日本 SUP 選手権が市後浜で開催されました。また来年、サーフィンの全国大会が実施されます。

宮崎県日向市、愛知県田原市、千葉県一宮町などの全国のサーフスポットと連携し、サーフツーリズムなどの実現ができないか、三重県にも広域連携として取り組みにご支援をお願いしたいと思います。

(知事)

東京オリンピックでは、サーフィンが正式種目に追加され、スポーツとしてより多くの方から注目されようとしています。志摩市には国内有数のサーフスポットがあり、全国大会や国際大会が毎年開催されています。サーフィンを活用したスポーツツーリズムについても、情報収集や情報提供などの支援をしていきたいと考えています。

オリンピックの事前キャンプの誘致に取り組み、ホストタウンに登録されれば、キャンプや交流の経費及びスポーツ施設改修等に対する国からの財政措置もあり、県としても連携して誘致に取り組みたいと考えますので、トライアスロンやサーフィンの事前キャンプの誘致をご検討いただきたいと思います。

(2) 地域の課題について

(志摩市長)

伊勢志摩サミットを機に「伊勢志摩」の名を継続的に情報発信し、地域振興・観光振興に役立てることを目的として、伊勢志摩ナンバーの導入に向けて三重県・周辺市町と進めています。

引き続き、伊勢志摩ナンバーが実現できるようご支援をお願いしたいと思います。

(知事)

11月13日に志摩市長をはじめ7市町長等が県へ導入要望のために来庁されました。11月17日に県から国へ導入意向表明書を提出しました。サミットの成果を生かす取組としても象徴的な意味合いがあると思っています。地域の住民や関係者の理解・賛同をいただくことが重要ですが、志摩市は住民アンケートで8割の方が伊勢志摩ナンバーに賛成ということですので、南勢志摩地域活性化局を中心に、県としての役割を果たし、引き続き実現に向けた支援を行っていきます。

(志摩市長)

免許を持たない高齢者や、免許の返納者の移動手段としての公共交通のあり方について、検討する必要があります。市では、現在、地域公共交通網形成計画策定に取り組んでいます。

浜島地区においては、電動バス・電気自動車を活用した運行実証実験を実施する予定です。運行の可能性など検証していきますが、県において電気自動車などの購入にかかる支援などお願いしたいと思います。

(知事)

将来の地域の公共交通網のあり方を示す「地域公共交通網形成計画」の策定に取り組んでいただいていることを大変ありがたく思っています。県としても、しっかりとバックアップしていきたいと考えています。

また、新たな運行実証実験の取組につきましては、モビリティ・マネジメントの取組を推進する中で、様々な利用促進活動を展開していますので、ぜひとも協力させていただきたいと考えています。電気自動車などの購入につきましては、国土交通省や経済産業省の補助事業がありますので、活用できるように情報提供など支援していきます。

(志摩市長)

11月7日～9日、岩手県大槌町に自治会長、消防団長、社会福祉協議会、教育委員会、行政職員が東日本大震災の被災地を視察してきました。被災地の復興への取り組みや、震災時の教訓等を学ぶことができました。

志摩市においては、南海トラフを震源とする巨大地震に伴う揺れや津波被害に対する備えに万全を期す必要があります。市民の皆様や、志摩市を訪れていただく皆さま方の安心・安全を確保していくことが

大切であると考えていますので、ご支援をお願いします。

(知事)

東日本大震災の被災地を視察され、震災時の教訓など現場の生の声を聞いていただき、現在志摩市で取り組まれている防災・減災対策への取り組みに生かしていただくことを期待しています。

東日本大震災のあと、海岸堤防の緊急補修を全県 200 カ所で行いましたが、一番多かったのが志摩市です。このことから、志摩市は重要なポイントが多いことが分かりますので、老朽化対策も含め県の事業・国の補助事業を活用しながら取り組んでいきたいと思えます。

(志摩市長)

今年の3月に行われました「すごいやんかトーク」で間崎島へ来ていただき、医療の問題が話し合われた結果、巡回診療に向けた取り組みを進めており、この度、県立志摩病院から医師の派遣をしていただけることとなり、ありがたくお礼申し上げます。

医師・看護師等の確保が重要な課題となっており、志摩市においても深刻な問題となっております。医療従事者の確保については、全国的な課題となっておりますので、国への働きかけについてもご尽力いただければと思います。

(知事)

本年3月に間崎島で行われた「みえの現場“やっばし”すごいやんかトーク」において、住民のみなさまから島内における医療の確保について、切実なお願いをいただきました。この結果、志摩医師会など関係機関のご理解、ご協力をいただき、現在、間崎島への訪問診療を行っていただいている「おかむらクリニック」の岡村医師が引き続き、間崎島で診療していただくことに加え、新たに県立志摩病院から医師を派遣して、巡回診療を実施することになりました。県立志摩病院の診療機能のさらなる充実・強化をはかり、志摩市民病院や志摩医師会の先生方と連携して、志摩地域における医療の提供が安定的・継続的に行われるよう努めていきます。

平成30年から開始される新専門医制度については、国などに対して意見や要望を行うなど専門医確保に向けた環境整備を進めていきたいと考えています。

また、医療従事者の確保に関する事業については、地域医療介護総合確保基金による支援を継続するとともに、長期的な観点から十分な財政支援措置を行うよう、国に対して要望等を行っていききたいと考えています。